

# 救急・災害時の搬送 迅速に

## 大久喜漁港

### 八工大生へり着陸目標制作

#### 八戸

八戸工業大学(長谷川明学長)機械工学科の学生たちが、八戸市鮫町の大久喜漁港の駐車場に制作を進めていた、ドクターヘリが着陸する際に上空からの目標となるランドマークが完成した。ヘリと救急車が合流する「ランドブーポイント」が識別しやすくなり、救急・災害時の患者の搬送がより迅速になることが期待される。(高松拓輝)

ランドマークは、八戸市で制作した。市民病院のドク一年間10回ほどフライトする立市民病院から要望を受け、ターヘリは、同市沿岸部で、大久喜漁港をはじめ複



【写真上】大久喜漁港がランドマークの設置に優れている点などを説明する学生たち。22日【同下】完成した大久喜漁港のランドマーク(小型無人機から。八戸工業大学提供)

数の漁港があり、救急車と落ち合う正確な場所が上空から把握しづらかったという。市民病院と同大は移動緊急手術室を備えたドクターカー「V3」を共同開発するなどの縁があり、昨年12月から制作に着手。延べ26人の学生が参加し今年6月に完成した。

マークは白のペンキで描かれ、大きき15四方の枠三つの中にそれぞれ「大」「久」「キ」と書かれてい

らも視認できるといふ。22日、現地で完成報告会が開かれ、長谷川学長は「地域の安心な暮らしと産業の活性化に貢献できた」と述べた。学生たちは大久喜漁港の周囲の環境や広さなどが、ランドブーポイントとなる条件を満たしていたことなどを報告した。

同病院救命救急センターの野田頭達也所長は「ランドマークによってより早く安全に着陸でき、万全な救命活動につながる。本当にありがたい」と話した。